

まずはお恵みをいっぱい

えんちょう こうち たかし
園長 高地 敬

ぶっきょう
仏教では「往相(おうそう)と「還相(げんそう)」ということが言われるそうです。
「往相」は一言(ひとこと)でいえば、お恵み(めぐ)をいただくこと。「還相」は、お恵み(めぐ)をいただ
いた者が、この世界(せかい)に働き(はたら)かけること、です。

この言葉(ことば)を教会(きょうかい)について当てはめると、神さま(かみ)のお恵み(めぐ)をいっぱいにい
ただくことが「往相(おうそう)」であり、お恵み(めぐ)をいただいた者がこの世界(せかい)を少しでも
良く(よ)していこうとすることが「還相(げんそう)」ということになります。

かみ
神さま(かみ)がこの世界(せかい)に働き(はたら)かけられるのにお仕え(つか)して、この世界(せかい)を少しで
も良く(よ)するのはとてもいい事(こと)に違(ちが)いがないので、そのためには自分(じぶん)がまず良
くしなければなりません。だから「いい人(ひと)になりましょう」と私(わたし)たちはす
ぐに考(かん)えてしまいます。教会(きょうかい)でも、教会(きょうかい)の幼児教育(ようじきょういく)でも、この「還相(げんそう)」
ばかりが強(きょうちよう)調(てう)されてしまっていると思(おも)えてなりません。

この世界(せかい)を良く(よ)して、子ども(こ)たちも良(よ)い子(こ)に育て(そだ)て。子ども(こ)が良(よ)い子(こ)であ
ればそれ(こ)に越(こ)したことはな(おも)いと思(おも)えるのですが、子ども(こ)にとってはいい迷惑(めいわく)
だと思います。何(なん)が「良(よ)い」こと(こと)なのか、大人(おとな)の尺(しゃく)度(ど)で勝手(かって)に決(き)められてし
まうからです。

こ
子ども(こ)にとっても大人(おとな)にとっても、まず「往相(おうそう)」。自分(じぶん)自身(じしん)がどこかから
お恵み(めぐ)をいっぱい受(う)けています。子ども(こ)たちも親(おや)を通して、幼稚園(ようちえん)を通(とお)
て、先生(せんせい)たちを通して神さま(かみ)からいっぱいお恵み(めぐ)をいただいています。

「まず往相(おうそう)」は難(むずか)しいのかも知(し)れませんが、難(むずか)しいからすぐ「還相(げんそう)」に
行(い)ってしまうのではなく、私(わたし)たちこそ、このことを大(だい)事(じ)にしたいと思(おも)いま
す。